

小城市立小城中学校

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析と今後の取り組みについて

令和5年10月

中学3年生を対象に今年4月に実施された、全国学力・学習状況調査(国語・数学・英語・意識調査)について、小城中学校の結果の分析と今後の取り組みをお知らせします。

国語、数学、英語については、学習指導要領の内容「知識・技能」「思考・判断・表現」別に分析と改善に向けた取り組みをまとめています。

また、生活習慣に関する意識調査については、全国・県と比較して数値がとくに高かった項目、低かった項目点についてグラフ化し、結果の分析と今後の取り組みについて示しています。

【小城中学校の国語、数学、英語調査の正答率について】

国語：正答率は国・県の平均と(ほぼ同じ)です

数学：正答率は国・県の平均と(ほぼ同じ)です

英語：正答率は国・県の平均と(ほぼ同じ)です

【個人票(結果)について】

9月に生徒に配付しています。個人票と照らし合わせて再度ご確認ください。

なお、答案の採点は国で行っているため、答案用紙の返却はありません。

【今回の調査を受けて】

今回の調査を受けて、職員で結果の分析と今後の具体的な取り組みについて協議しました。今後の授業において、強みとなっている部分をさらに伸ばしていくとともに、弱みとなっている部分に対する効果的な展開を全教科で実践していきます。

小城中では「起床時間、就寝時間が一定である(生活リズム○)」「1日当たりの読書時間が多い」という調査結果が出ています。一方で、「計画を立てての家庭学習」「学習時間の不足」等が課題となっています。学校でも、将来に向けた学習の必要性などを伝えていきますが、学校と家庭が両輪となって、これらの課題に向き合っていくことが必要と考えます。保護者の皆様におかれましても、子どもたちの健やかな心身の成長のため、本校の取組に御理解、御協力いただきますようお願い申し上げます。

◆令和5年度全国学力・学習状況調査《 国語 》

今回の調査で明らかになった全体の傾向

- 全体の正答率は、佐賀県の正答率とほぼ同じである。
- 思考力・判断力・表現力等の正答率は、「書くこと」が低くなっている。
- 「読むこと」については、3問中2問で佐賀県の正答率を上回っている。

観 点	分析結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字を正しく書けていない。 ○文章を内容のまとまりで分けることができていない。 ○内容のまとまりごとの要旨を捉えられていない。 ○心情を表す語句については理解、定着が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一つの語句を異なる文脈で書く機会を増やす。 ○文章を内容のまとまりで区切る練習をする。 ○内容のまとまりごとに要約したり、見出しを付けたりする学習を取り入れる。 ○引き続き、心情を表す語句について読み取りのキーワードとしての理解を促す。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○記述式問題の無回答率が高い。 ○自分で考え、自分の言葉で表現することに課題が見られる。 ○文章を引用して書くことや、例をもとにして書くことが苦手である。 ○文章における表現の効果の理解や要旨の把握はある程度定着している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読み書きの際に時間を計り、読み書きのスピードを意識させる。 ○单元ごとに、自分の言葉で書く活動を組み込み、表現の機会を増やす。 ○条件を捉えて書く活動を取り入れる。 (条件の言葉をさまざまにする) ○文章理解の根拠となる表現についても注目させ、明確にしていく学習を積み重ねる。

◆令和5年度全国学力・学習状況調査《 数学 》

今回の調査で明らかになった全体の傾向

- 全領域（「数と式」「図形」「関数」「データの活用」）の平均が、佐賀県の平均、および国の平均に比べて、有意に低くなっている。
- 評価の観点において、「知識・技能」の平均は、県とほぼ同じ、国よりやや低くなっている。「思考・判断・表現」の平均は、県および国に対し、低くなっている。

観 点	分析結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<p>○言葉の意味を理解せずに、計算問題だけを解くことが多いため、定義の本質を問う問題の正答率が低い。</p> <p>○1年次の学習内容である、「データの活用」において「度数」「累積度数」「代表値」「最頻値」「相対度数」など、似たようでありながら意味の異なる言葉を多く学習する。2年次以降は中央値以外復習することがないため、言葉の意味を忘れていく生徒が多い。</p> <p>○技能は県と比べて「ほぼ同じ」である。全国に比べて「やや低い」である。</p>	<p>○公式や定義を覚える。</p> <p>○その公式や定義がなぜ成り立つのかは授業の中で取り扱うので、授業をよく聞いておく。</p> <p>○日常生活の中で使う場面での、自然数や整数を考えさせたりすることで定着を図る。</p> <p>○ワークや小テストなどで問題演習をして言葉の意味の定着を図る。</p> <p>○数学的な技能は1・2年時の取組のスキルアップテスト（計算問題）の実施により着実に成果が出ている。継続して取り組んでいく。</p>
思考・判断・表現	<p>○記述の書き方の例が示されている問題において、無回答率が高い。</p> <p>○図を見て読み取る問題の誤答が多い。問題文の中の条件（2006年～2020年の箱ひげ図に着目して）という文章を読み取れていない。または、読んではいくが理解ができていない。</p> <p>○数学が実生活に生かされていることに気づいていない生徒が多い。</p>	<p>○問題を根気よく読み取る。</p> <p>○出題に従って解答する。</p> <p>○自ら課題に取り組む姿勢を身に着けるように促すことが必要である。</p> <p>○箱ひげ図の読み取りを色々な角度から疑問を見つけ、授業で取り組ませる。</p> <p>○学校生活や授業の中で、実生活で数学が生かされている場面を意識して取り上げる。</p>

◆令和5年度全国学力・学習状況調査《 英語 》

今回の調査で明らかになった全体の傾向

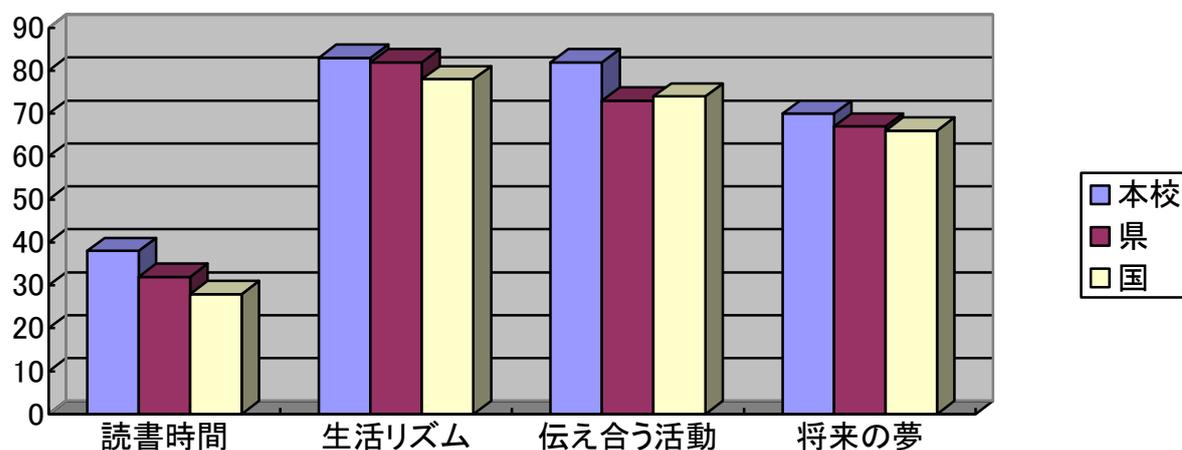
- 「聞くこと」に臆することなく取り組むが、聞きながら読み、聞いた後に読んで考える問題では正答率が下がる傾向にある。
- 長めの長文を読むことに苦手意識をもつ生徒が多い。
- 状況に応じて判断し、読みとる力の不足が見られる。

観 点	分析結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○「聞くこと」に関しては苦手意識が低く、記号問題においては無回答率が0%であった。 ○会話文を聞き、絵を選択する問題では、県の正答率を上回っており、情報を正確に聞き取ることができる生徒が多い。 ○まとまりのある文を読み、文と文の関係を正確に読み取り、文の流れに合う接続語の選択ができていない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「聞くこと」「話すこと」は毎回の授業で会話活動を多く取り入れることで更なる力の向上を図る。 ○より自然な会話に慣れさせるために、ALTやICT教材を活用して、力を付けていく。 ○教科書の音読や副教材などを有効に活用して、まとまりのある文や長文に慣れ、概要を的確につかむことができるようにする。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○事実や考えが書かれた文を読み、考えを伝える単語の使い方を理解し、事実と考えを区別して読み取ることができている。 ○日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報をつかむことや、自分の置かれた状況に応じて必要な情報を判断して聞き取ることができない生徒が多い。 ○臆することなく長文を読み、たくさんの情報から大事な部分を整理して読み取る力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○考えを表す語（think, should, hope, want, guess など）を知り、それらを使って自分自身のことを表現する活動を試みることで、長文で、事実と考えを区別して読む力をつける。 ○目的や状況に応じて的確に情報をつかみ、判断しながら聞くことができるよう、会話活動や読解活動で、場面設定をし、考えながら表現する活動を工夫する。 ○教科書の文や多読を通して長文に慣れさせる。多くの長文に触れることで的確に概要を読み取る力をつける。

小城中学校 生活習慣に関する「質問紙（意識）調査」

県・全国と比べて小城中の数値が高かった項目

	調査の項目
1	（授業を除いた）1日当たりの読書時間が30分以上である
2	毎日の起床時間、就寝時間がほぼ同じ時間である
3	英語の授業で、気持ちなどを伝え合う活動がされている
4	将来の夢をもっている



分析と取り組み

①【分析】平日の1日の生活リズムが取れている生徒の割合が高い。

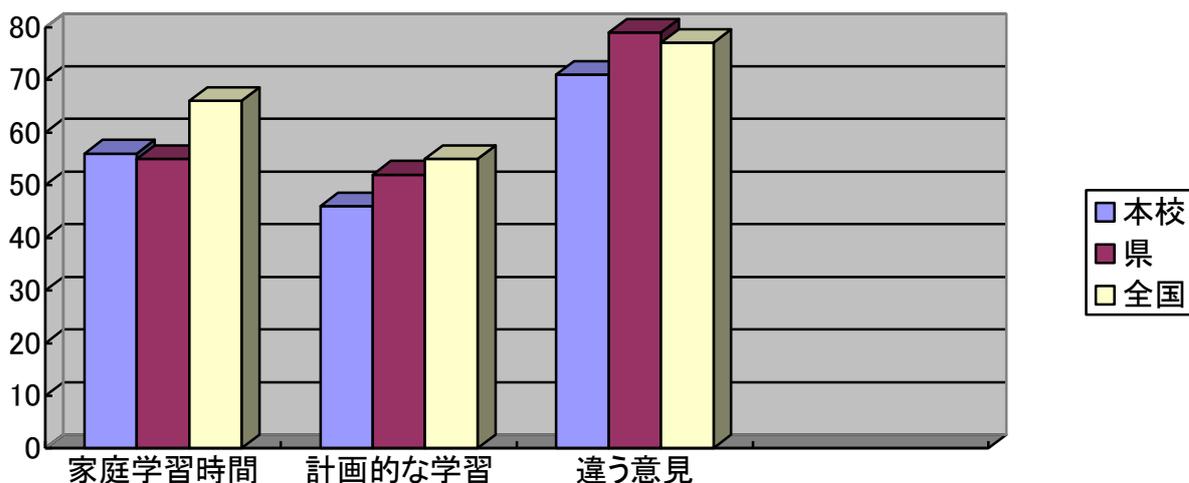
【取組】正しい生活リズムであることは心身の健やかな成長にもつながることであり、食育活動についてもさらなる充実を図っていく。

②【分析】英語では「聞く」「書く」に加え、自己の考えを「話す」活動に取り組んでいる。

【取組】知識を自分の中に取り込むインプットするだけでなく、他者に向けてアウトプットしていくことで英語力やコミュニケーション力の向上につながる。学び合う活動を通して、他の教科においても取り組みを強化し、生徒の主体的な学びを支えていく。

県、全国と比べて小城中の数値が低かった項目

調査の項目	
1	平日の学習時間が「1日1時間以上」である
2	家庭学習は自分なりの計画を立てて取り組んでいる
3	自分と違う意見について考えること楽しいと感じるか



分析と取り組み

①【分析】授業中は努力している傾向にあるものの、家庭学習時間が平均に比べて数値が低い。
1時間に満たない割合が全体の3分の1となっている。

【取組】自主学習の取り組み方について、各教科で例を示す。家庭での時間の使い方指導（タイムマネジメント）の工夫。面談や学校便りを通して、家庭との連携強化を図る。

②【分析】半数以上の生徒が、家庭学習の進め方について「出された課題をする」というスタンスにとどまっており、自主的な弱点克服のための学習にあまり取り組めていない。

【取組】第一に、出された課題を提出できるように声掛けやアドバイスを行う。第二に、自学ノートを活用して、その日の学習内容を振り返って弱点となる部分に取り組むことで基本的な学力を定着させていく。